

事業所内における自己評価結果（公表）

別紙3

公表：令和6年3月22日

事業所名 一宮市すぎの子教室

チェック項目		はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室棟スペースとの関係が適切である	5	2	0	・利用人数が15組以上となる日は、どうしてもスペースが狭くなるので、室内に「静」と「動」に分けたコーナー遊びを設定し、動きたい子どもの動きを保障しつつ、危険のないよう環境作りを工夫している。また園庭や別の部屋も利用するようにし、密を避けている。	・人数が多い日は、園庭や別の部屋も利用し、利用者の興味を満たせるような遊び、環境設定を工夫し、各場所に分散して過ごせるように配慮していく。
	② 職員の配置数は適切である	5	2	0	・激しい痙攣等、保護者だけでは対応が難しい場面や、下の子を連れて通園されている保護者のフォロー等で、人手が足りなくなるような時もあるが、職員間で声をかけ合い、連携を取り臨機応変に動くよう努めている。	・支援が必要な保護者や子に、より丁寧な支援をするために、部分的な時間だけでもよいので保育士の人員を増やせるとよい。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	7	0	・玄関や南側テラスの段差が高いため、必ず大人が付き安全面の配慮をしている。	・継続していく。
業務改善	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	0	・室内の玩具や遊び等の環境について、子ども達の発達段階に合っているか、遊びの様子、興味に応じて、環境を再構築する等、職員間で定期的に話し合っている。	・子どもの姿や発達の様子に合わせて、環境を整備し、安全で快適に過ごせる環境となるよう努めている。
	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	0	0	・目標設定を基に、日々の支援の振り返りを全職員で行い、今後の手立てを考えたり話し合ったりし、定期的に見直しや再構成をしている。	・管理者が全体を把握しつつ各職員も他の職員と確認し合いながら、計画的に進めていくことに努める。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0	・保護者の思いやニーズをしっかりと捉え、職員間で共有し、要望等取り入れられる所は、できる限り改善策を考え、迅速に対応するようにしている。	・引き続き、全職員が内容を確認することで、一人一人の保護者の思いやニーズを理解するよう努めていく。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0	・公表した時には保護者に伝えている。	・ホームページに公表されていることを全員に伝えると共に、紙ベースの物をファイルにし、いつでも見られるようにしておく。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	7	0	・第三者評価は、現在は行っていない。	・今後、必要があれば上司と相談し実施できるようにし業務改善に繋げたい。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑨ 職員の資質向上のために、研修の機会を確保している	7	0	0	・定期的に園内研修を行っている。 ・外部研修には積極的な参加を呼びかけている。 ・研修に参加した職員は、全て内容を回覧・伝達し合い全員で共有し、資質向上に努めている。	・事例検討等も定期的に行えるよう努める。
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	0	・保護者からの聞き取りや子どもの姿から現在の発達状況を的確に捉え、保護者の思いに寄り添いながらも課題を明確にしていき、必要な支援を取り入れていけるような支援計画を作成している。	・保護者の思いを受け止める中でニーズはどの部分にあるのかをしっかりとキャッチしていき、無理なく子どもの自発性に繋がるといったような、より良い支援や関わり方を提案できるよう努める。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	0	・定期的に運動面や社会性、言語面の育ちをツールを使って見ることで、その時の育ちの目安としている。	・継続していく。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている	7	0	0	・児童発達支援ガイドラインを、年度初めに再確認し、内容の理解を深めることで意識し、支援に繋げていけるようにしている。	・事業所で行う行事や具体的な家族支援等について、書面及び話し合いの中でねらいや大事にするべきことの確認をするよう努める。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	0	・支援計画作成後、達成できそうな小さな目標を毎月保護者と共に考え、スモールステップで進めていけるよう助言している。保護者と話し合いを積み重ねていくことで職員も、より子どもに合わせた支援ができるように努めている。	・子どもの姿の捉え方に偏りが生じないように、関わる中で様々な職員が気付いたことを互いに伝え合い、多角的な視点から支援の見直しを定期的なことに努める。
適切な支援の提供	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	・職員間で話し合いを重ね、振り返りの中で随時改善しながら、進めている。	・その時の子どもの興味や育ちを考慮した活動内容となるよう努める。
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	・プログラムを段階的にしたり、変化を加えたり子どもの興味に合わせた活動を取り入れる等工夫している。保育士の話し合いだけでなく専門職（作業療法士）の助言を取り入れている。	・他事業所のプログラムの内容を聞いたり見学したりして、色々な内容を知り、より幅広い視点から楽しめる活動を提供できるよう努めている。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7	0	0	・個別支援計画、言語訓練支援計画、1対1の遊びによる支援計画を作成している。その中で、状況により、集団での姿を網羅した内容も取り入れている。	・継続していく。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	・全職員で毎朝必ず実施し、全体で配慮すべき点や個々の支援の手立て、職員の役割分担等、詳細に打ち合わせをしている。	・継続していく。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	0	・療育終了後には一日の振り返りをし、反省点を話し合い、個別に配慮すべき事項は、次回利用日の朝に再度確認し、支援できるようにしている。	・継続していく。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	・担当保育士が個別に療育の中での支援や家族支援等の記録をしている。 ・個別に関わった職員が報告し合い、ヒヤリハットや身体拘束の疑い等についても記録している。	・継続していく。
⑳	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	・毎月のねらいによる振り返り、三か月及び六か月後のモニタリングを行う中で、育ちに合った支援ができてきているか検証し、必要に応じて見直している。	・継続していく。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	0		・現在対象となる児が在園していないため行っていないが、今後対象児が入所となれば、連携しながら進めていく。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0	0	・保健センターでの健診後の事後教室・カンファレンスに参加し、その後体験に繋がってもらう等、連携支援を行っている。	・継続していく。
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	7		・現在対象となる児が在園していないため行っていないが、今後対象児が入所となれば、連携しながら進めていく。
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合) 子どもの主治医や医療機関と連絡体制を整えている	0	0	7		・現在対象となる児が在園していないため行っていないが、今後対象児が入所となれば、連携しながら進めていく。
㉕	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	0	・就園先と子どもの姿や保護者の思いを伝える場(園訪問等)を設けたり、電話連絡で児の様子を伝え合ったりして連携を図っている。	・継続していく。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	②⑥ 小学校や特別支援学校（小学部）等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	0	7		・対象児がいない。
	②⑦ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	0	・他の親子通園施設や関係機関との検討会等に定期的に参加し、連携に繋げている。 ・障害児等療育支援事業に参加し、研修を受けている。	・全職員が、積極的に外部との会議や研修に参加し、より良い支援や手立てを考えていけるよう努めている。
	②⑧ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7	0	0	・保育園の園庭開放等への参加や、幼稚園開催のサークル等では集団の中で過ごしたり、子ども同士で関わりを持ったりする機会はある。 ・園外療育で、地域の子どもの遊び場などで遊んだり、ふれあったりする機会はある。	・保育園、幼稚園の園庭開放やサークル等をリーフレットで知らせたり、声をかけたりし、情報をしっかりと伝えていき積極的な参加を呼び掛けていく。
	②⑨ 自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て支援会議等へ積極的に参加している	7	0	0	・組織として代表が参加している。 ・児童発達支援管理責任者連絡会等の会議には積極的に参加をし、地域の情報を得ている。	・継続していく。
	③⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0	・自由遊びの時間を利用したり、個別に相談に応じる場を設けたりして、保護者の困り感に寄り添いつつ、子どもへの関わり方を共に考えている。職員間でも、報告・検討し、より良い支援に繋げている。	・保護者との話の中で迷いが生じた時には、すぐに答えを出さず他の職員からの見立てを聞き、より良い支援を考えてから返答するよう努める。
	③⑪ 保護者の対応力向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	7	0	0	・職員が実際に関わり支援する姿を見せたり、具体的に支援の方法を示したりしている。 ・児童発達支援センターで実施するプログラムに希望者には参加してもらい、職員も養成者として参加している。	・ペアレントプログラムは、掲示で知らせているが、周知の方法を今後も工夫していく。
	③⑫ 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0	・契約時に、同じ書面を一枚ずつ見ながら、時間をかけて丁寧に説明している。	・継続していく。
	③⑬ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	0	・現在の姿の中で、どんな時、どんな頻度で、どのような支援をしていくと良いかを保護者のニーズも折に触れながら話すようにしている。	・保護者のニーズと子どもの育ちにずれが生じる場合もあるが、現在の姿を専門的に見て伝えることで、より子どもに合った支援となるよう努めることも必要である。

		チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時相談を受けている。 ・ 保護者と話し合い、毎月立てている月のねらいについて、月末までに必ず振り返りながら、達成を喜び合ったり支援の方法について助言したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の子どもの姿や保護者の関わりを見る中で、具体的な成長を伝えたり関わりを褒めたりして、家庭でも活かせるような支援となるよう努めている。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者主催の会は今のところない。 ・ 毎月保護者交流会を開催している。 ・ 保護者のニーズは保護者同士の情報交換であるため、座談会や話ができる場を提供する等している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末にアンケートをとり、次年度に向けて調整するよう努める。
	③⑥	保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当職員から上司に報告し、迅速に対応できるようにしている。 ・ 事業所内で解決が難しい時には、管轄の児童発達支援センターの上司に報告、相談している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続していく。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を保護者に対して発信している	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に一度、月末に「すぎの子便り」を発行し、その月に伝えたいことを内容に盛り込んで発信している。また、より良い子育て支援ができるよう内容を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続していく。
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報扱う際の注意や、守秘義務について全職員が意識できるよう、定期的に話題に挙げ対処している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者から相談の申し入れがあった時、利用者と話す場所の配慮、時間をずらすなど、個人情報の取扱いに十分に気をつけるよう努めている。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人一人の特性に合わせた対応ができるよう、日々の申し送り等で気付いた必要な支援（視覚的・身振りサイン等）を積極的に取り入れられるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども、保護者共に、その人に合わせた分かりやすい丁寧な伝え方を考え、安心感や信頼感を抱いてもらえるような配慮に努める。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の図書館で読み聞かせをしているボランティア団体に定期的に来てもらい交流している。 ・ 地域の方に農作物を見せてもらったり、挨拶したりして交流している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続していく。
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各マニュアルは作成し、職員は把握している。 ・ 防犯訓練は毎月色々な想定の実施しているが、参加者は全員が毎回参加ではないため、周知方法に課題がある。適宜保護者に伝えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアルがいつでも見られるよう、置き場を工夫し閲覧を呼びかけていく必要がある。 ・ 防犯訓練は、利用が週1回等少ない方は数回しか参加していない方もみえるので、実施内容や想定による対応を細かに伝えるようにする。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④② 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	・震度や出火場所等の想定をその都度変え、定期的に訓練を実施し、職員間では役割分担を行い、より安全な避難の仕方を考え、実施する。終了後は、必ず振り返りの話し合いをし、反省点を共有して次に活かせるようにしている。	・固定化した想定や支援方法にならないように、様々な角度からの予測を立てながら、役割分担、安全な避難ができるように努め、連携しながら行う。
	④③ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7	0	0	・契約時に直接状況を聞きどのような対応をしたらよいか話し合ったり、園保管の書面にて確認したりしている。	・入園後、状況に変化があった時にはその都度、漏れなく記載し、注意や対応の仕方を全職員で周知するよう努めている。
	④④ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	0	・常に保護者が一緒にいるため、保護者にも確認をお願いし、事前にもしもの時の対応を含めた確認を必ず行っている。 ・保護者と相談し、安全な食事の席の配置に配慮する。その際、必ず複数の職員で確認する。	・継続していく。
	④⑤ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0	・一日の中であったヒヤリハットは、必ず毎日の振り返りの中で話題に挙げ、会議録に記載し全職員で共有できるようにしている。 ・ヒヤリハット事例集を作成し、職員に配布している。	・ヒヤリハットは三か月に一回見直しを行うよう努める。 ・事例集は各職員で共有し、危険回避を意識できるようにする。
	④⑥ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0	・他事業所と定期的に話し合う場を設けたり、虐待防止の研修に参加したりしている。 ・日々の療育の中で支援に迷ったことは声を出し合い、職員間で共有し、対応の仕方を共に考えていくようにしている。	・虐待防止の取り組み内容や研修での学びを職員間で共有し、積極的な意見交換の場を作ることで、さらに意識していけるようにする。
	④⑦ どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	0	・入所前の契約時・アセスメント時に具体的な事例を挙げながら、ここで言う身体的拘束とは何か、今の育ちの中でどの場面に直接体に触れる支援が必要かを話し合いながら、保護者に丁寧に説明し、承諾を得るようになっている。	・定義についてはマニュアルを作成し、それに基づいて職員間で共通認識している。
合計		290	18	21		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。